

ひかり

令和7年11月28日(金)
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
6年学年便り 12月号

「つながっていくこと・つながっているということ」

家庭科の学習で、「共に生きる地域での生活」という単元があります。自分の住み慣れた地域に目を向け、地域に住む人々や行事などの関わりについて関心をもったり、自分の生活が地域との関わりによって成り立っていることを理解しながらそこに住む一員としてできることを模索していくねらいがあります。授業を担当した私は、本校は様々な地域から集うからこそ、共通して見えてくるものに目を向け、共に考えていくことのできる授業をしたいと考えました。単元の初め、子どもが地域というものにどれだけの関心があるのか、またどれだけの関わりがあるのか、まずはそれぞれが自身の生活と地域を見つめ直しました。そして「あなたが地域を感じるひと・もの・ことは何だろう?」という話題になると共通して見えてくるものがありました。あるクラスでは「公園・回覧板・お祭り」が多くの地域にあり続ける共通事項のトップ3として挙げられ、それぞれが時代や社会が変化しても今もなお残り続けている理由について一人一人の考えをもちよりながら語り合いました。ある子は「3つに共通していることは『人とのつながり』だと思う。みんなが憩える場所があったり、楽しさを共有したり、共に伝統を守ったりすることを通してつながることを今の時代も大切にしているんだと思う」と語り、またある子は「今の時代SNSがこれだけありふれているのに回覧板だけは板のまま。なんで変わらないのかなって考えた時に、きっとそういうものを使いこなせない人がいるっていうこともあるとは思うんだけど、それ以上に回覧板を通して町内での『つながり』を守っているんじゃないかな」と語ります。子どもはそれに考えを巡らせながら、地域社会における不易の部分を自分なりに意味づけていったのではないかでしょう。そして、単元最終時、ある子は「自分が地域に大きく影響を与えることは今すぐにはできないかもしれないけれど、まずは自分にできることから始めたい。例えばあいさつ。そして優しさや小さな心遣い。人と関わることで嬉しさを感じる人がいるならそれを大切にしてつなげていきたい」と地域における自分の役割について振り返り、またある子は「つながっていくこと、つながっていることってすごく大切。私たちも違う地域からここに集まった仲間だからこそ、私たちなりのつながりを大切にていきたい」と自身の学校生活に向けた振り返りをする姿がありました。

修学旅行を通して、より一層仲間との『つながり』を深めたひかりの子どもたち。各学級では卒業に向けたカウントダウンが始まり、附属小6年間の集大成へと歩みを進めている最中です。また「卒業」に関する実行委員も動き始めています。年内には卒業文集を完成させ、年が明けてからは、6年生を送る会や委員会引継ぎ式の準備が本格的になると同時に、卒業式に向けての準備や練習が行われていきます。いそがしい日々にはなってきますが、家庭科の授業で感じたようにこれまでの『つながり』を感じながら、これからの中の『つながり』をさらに強めたり高めたりしていってほしいと願います。そしてこの学校で過ごすことのできる残りの日々を「ひかり」の仲間と共有し、日々の出来事に「ひかり」なりの意味を感じたり、自分たちにできることを考え実行したりしながら、かけがえのない日々を過ごすことができるよう支えていきたいと思います。